

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201322		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 ユニット:さくら		
所在地	長崎県佐世保市長畑町450-1		
自己評価作成日	令和3年10月10日	評価結果市町村受理日	令和4年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 3年11月10日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ユニット:さくら 法人の掲げる理念はもとより、スタッフ一人一人が利用者様に心から寄り添い、利用者様にとってのご家族であり、友人であり、そしてお世話をさせて頂くスタッフであるということを念頭に置いている。 また、ご家族からのご意見、ご相談も随時お伺いしており、可能な限りご希望に添えられるようスタッフ皆でよりよい支援が実現できるよう心掛けています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人理念にある「いつまでも自分らしく」を基盤に、職員は利用者との関わりの中で本人に問いかけ、自己決定できるよう見守り支援している。また、母体医療機関との連携により、急変時や看取りまでの医療サービスと、法人施設との協力体制は強みである。介護計画変更時は、「施設サービス計画書変更用ケアシート」に、今後どのような支援が必要であるかを各職員が、自由記述にて意見を出し合い、計画を見直しており、職員全員が計画作成に参加する仕組みを構築している点は、特筆すべきである。新型コロナ禍の為、面会制限中の家族に、管理者が毎月電話で詳細に様子を伝えている他、ホームだよりに加え、行事の様子をビデオレターで送る等、家族の安心と喜びとなっている。少人数制ならではのグループホームの特性を最大限に活かし、利用者の「その人らしさ」を大切に思いを込めて支援するホームである。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を玄関、フロアに提示し職員全員で共有、実践に繋げている。	玄関やホーム内に理念を掲げ、職員の意識を高めている。理念「いつまでも自分らしく」に沿い、本人の意向をまず問ひかけ、自己決定できるよう見守り支援している。また、管理者は、ミーティングで職員一人ひとりが理念について考える場を設ける等、理念の具現化に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店を利用したり、清掃活動に参加したりと定期的な交流を図っている。保育園の交流会については、コロナ禍の為見合わせており、粗品(お菓子や筆記用具等)のみお渡ししている。	新型コロナ禍以前は、保育園児との交流会や中学生の職場体験による訪問など地域交流を図っており、収束後には再開予定である。地域の一斉清掃では、清掃開始前に職員が空き缶拾いを実施している。近隣住民からは有事の際の屋外での見守り協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	清掃活動等を通して、交流を深めて行くよう努めている。 地域中学生の介護実習を受入れていたが、コロナ禍の為、現在は見合わせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を開催していたが、現在はコロナ禍の為、開催出来ていない。 書面の送付、返送にて意見交換を行いサービス向上に活かしている。	今年度は新型コロナ禍のため書面会議で対応している。運営推進委員へ活動報告書を配付し、感想や意見を多数得ており、サービス向上に活かしている。その後、議事録を取りまとめ市へ提出している。また、全家族へ会議への関心が高まるよう議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関してわからない点については、各ご担当に相談、助言を頂いている。 コロナ禍の為、研修参加は実現出来ていない。	今年度は新型コロナ禍により行政からオンライン研修の案内があり参加している。日頃から市、支所双方に運営における手続きや不明な点を問ひ合わせ、協力関係を築くよう取り組んでいる。法人本部とその都度連携を図っている他、事故報告書は、ホームが提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍の為、施設内研修は開催出来ないがミーティング等で話し合いの場を設け、資料を基に基本方針の共有や事例検討等を行い、意識付けやケアの質の向上に努め、意識統一を図っている。	指針を整備し、身体拘束等適正化委員会を2ヶ月毎に開いている。研修計画に沿って年2回、「身体拘束・虐待防止委員会研修」と題し、勉強会を行っている。ミーティング内でも言葉の拘束等、職員間で検討しており、拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍の為、施設内研修は開催出来ないがミーティング等にて職員同士で検討し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。 現在、対象者はいないが必要と思われる方がいれば関係者と協議し、制度利用を支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や状態変化に応じて、ご家族が十分に理解、納得されるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時等にご家族に意見や要望をお伺いしてその都度対応し、反映させている。	新型コロナ禍の中、家族の面会を制限しているため、家族に便りを送付している。また、毎月電話で利用者の暮らしぶりを伝え、要望や意見を尋ねている。家族からの問い合わせに答えたり、新聞を読ませてほしいという希望を叶えている。ホームから家族に古新聞の提供を依頼しており、協力を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等にて意見交換の場を設け、提案や改善要望等があれば都度検討し、全員が納得したうえで運営、または支援に反映するようにしている。	年2回管理者は職員の面談を行い、職員の話聞き取り、労働環境の整備に繋げている。また本部へも職員の意見を伝えやすい社風であり、新型コロナ禍で面会が制限されている中、家族との面会を可能にしてほしいという職員の意見を反映し、10分内の面会が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の意見を聞き、職場環境の整備やサービスの質の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外問わず、研修の案内があった場合は職員へ報知し、希望する研修への参加や職員の能力に応じた研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以前はグループホーム連絡協議会を通じて様々な意見交換を行っていたが、現在は自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族への意思確認、また当事業所利用前のケアマネへ連絡する等、当事業所を利用するにあたって不安等を与えないよう事前に情報収集をしっかりと行ったうえでサービス提供出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際にご家族の不安や困っている事、ホームでの生活に対する意向や要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族へのアセスメントを行い、要望や必要な支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人に応じた出来る事、やりたい事を日々の生活の中に取り入れ、感謝の気持ちを念頭に置き、暮らしを共にする者としての関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族と過ごす時間を確保し、有意義な時間を過ごして頂けるよう努めている。 また、コロナ禍以前はご家族との外出や外食等への支援の協力もあった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、なかなか直接面会するという形が取れない中、電話や写真、広報等を活用し、ホームでの様子を発信している。	利用者の中には、日記をつけている人、家族が絵具を差し入れ趣味の絵画を続けている人等、入居前の生活を継続する支援を行っていることが窺える。新型コロナ禍の中、家族との窓越しでの面会の他、最近では10分間の面会を行ったり、携帯電話で連絡を取っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や関係性を考慮し、食事やレクリエーション時等の席の配置、フロア的环境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も関係機関との連絡や必要に応じて様子確認等を行う事もある。相談時は適宜対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中で本人の意向や要望の把握に努め、意思の伝達が難しい方には職員間で共に検討し、希望に沿えるよう支援している。	毎日、職員は支援を行う際、利用者の意向を尊重し、選択できるよう問いかけている。利用者の生活歴や家族構成等は、センター方式の用紙を利用して記録している。職員が利用者から聞き取った内容は、介護記録に記載し、職員間で共有化を図っている。ただし、職員全員が一目で把握できる状態とは言えない。	法人内での人事異動や新人を採用することも想定し、職員全員が、利用者の思いを一目で把握でき、共有化しやすい方法を検討していくことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の話を傾聴することでその人の生活歴や趣味等を把握し、職員間で情報共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や過ごし方、表情等を観察し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや定期的なモニタリングにてその人にあつた支援方法等を検討し、反映させる事でよりよいケアが提供できるよう努めている。	利用開始1ヶ月の暫定プランを立てている。職員はサービス計画書変更用ケアシートを自由記述で提出し意見を出し、計画を見直しており、職員全員が計画作成に参加できる仕組みを構築している。家族の要望は面会時や電話等で聞き取り同意を得ている。今回、介護計画の実施状況が分かるよう記録の改善を行っていることを確認した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への記入や送付ノート等を活用し情報共有を図っている。また状態変化があればその都度検討、反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で臨機応変に柔軟な支援や対応が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は地域の美容室を利用する等、交流を図れていたが現在は出来ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や受診等、協力医との連携や相談を随時行っている。 本人やご家族の意向も伝えており、法人外のかかりつけ医には、必要に応じて情報提供を行っている。	全利用者が母体法人の医療機関をかかりつけ医としており、毎日理事長による往診がある。准看護師2名を配置しており、法人の正看護師と連携を取りながら、緊急時にも適切な医療が受けられるよう努めている。他科の通院などは、基本的に家族が同行しており、結果内容を記録し職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気が付があれば報告や相談をし、適切な看護を受けられるよう指示や助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携先の病院各位と情報共有し、有事の際に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や状態変化時、終末期に都度ご説明しており、意向を確認し、プランを作成している。 病院との連携、情報共有を行っている。	母体医療法人と連携を図り、看取り支援を継続している。利用開始時に重度化した場合の指針を家族と共有している。終末期は、意向の再聴取や説明を重ね、「看取りのケアプラン」を作成し、同意を得ている。また、看取り時は管理者もホームで待機し夜勤職員をフォローしている他、内部研修を開き、職員間の知識の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って医療機関に連絡し対応する。コロナ禍以前は、定期的に消防署員より救急救命講習を受講していた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	2ヶ月に1回のペースで自主消防避難訓練を実施している。 コロナ禍以前は消防署員、地域住民の方達にも参加して頂いていた。	総合訓練は年2回、夜間想定で実施しており、内1回は11月後半に消防署立会いで実施予定である。前回の評価後、ユニット毎に2ヶ月に1回、自主避難訓練を開始しており、法人内の他施設から見学者が入るなどさまざまな取組が確認できる。各居室前には利用者の歩行状態を色分けした「レベルカード」を備え、避難対策を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に対して敬語を主とし、その時々 の状況に応じた言葉かけや対応に配慮して いる。	職員の採用時には、守秘義務の誓約書の提出を 義務付けている。利用者と呼ぶ際の声のトーンに 気を配り、人格を尊重する支援を行っている。また 便りに掲載する写真については、書面で許可を得 ている。トイレの使用時は、必ずドアを閉め、パ ッド類は、外部の人の目に触れないようにして おり、プライバシーに配慮していることがわかる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決 定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の話をよく傾聴し、そ の中で伝わってくる思いや希望を通して、本 人が自己決定出来るような環境作りを心掛 けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひと りのペースを大切に、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	本人のペースで自由に生活できるよう本人 の話をよく傾聴し、その時々 の状況に応じた 支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援 している	季節に応じた服装を本人と一緒に選んだ り、ご家族へ依頼したりと着たい服を選んで 頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力 を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、 片付けをしている	食事の下準備や片づけ、お盆拭きを一緒 に行ったり、好物を献立に取り入れる等の支 援を行っている。	食事は、ユニットそれぞれで献立を作成している。 手作りのお節に始まり、恵方巻、鯉の生菓子、そ うめん、スイカと季節感を大切にしていることが 見える。利用者も野菜の皮むき等、下拵えから参加 して楽しんでいる。敬老の日や誕生日の祝い膳、 屋外でのランチ会等、毎日の暮らしが豊かになる よう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保 できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援 をしている	一人一人の体調に合わせた食事サー ビスや栄養管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひと りの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの言葉掛けや能力に 応じた支援を行っている。 また、義歯については定期的に洗浄液に浸 け、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、個々に応じた言葉掛けや誘導を行い、必要に応じて一部介助にて自立に向けた支援に努めている。	現在、布パンツ、リハビリパンツ、おむつと利用者の状況はさまざまである。ポータブルトイレの利用も夜のみ、昼夜と状況に合わせて支援している。チェック表により、排泄パターンを記録することで、個人のリズムを把握し、パッド類をより小さく、薄いものにできないか検討を重ね、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整や乳製品の提供、軽い運動やマッサージ等を取り入れた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望に応じた入浴の支援となるよう心掛けている。	入浴時は浴槽に浸かり、リラックスできるよう支援している。介護度が高い利用者には、足浴とシャワーを組み合わせている。脱衣所には、エアコンを備えて、ヒートショックを予防している。季節感を大切に、ゆず湯や菖蒲湯で職員とゆっくり話ができる時間となっている。清拭や毎朝の更衣により清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や本人の希望に応じて午睡する等、安心して休息できる居場所の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の際に説明があり、職員間で薬情の確認をする等情報の共有を図っている。必要に応じて、主治医へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味等の把握を行い、個々に応じたレクリエーション等に活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前はご家族の協力や季節に応じた外出支援を行ってたが現在は自粛している。天候や体調を考慮したうえで庭先でお茶の時間を設ける等の支援は行っている。	新型コロナ禍以前は、外出を行っていたが、昨年からは自粛している。ホームの駐車場で昼食やおやつを食べる機会を設け、利用者が外気に触れ、気分転換ができるよう工夫している。今年度は、近隣の桜の名所へドライブを再開し、楽しい時間を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者様が管理困難な為、ご家族での管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、ご家族の希望に沿って対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と共に作品作りをする等、季節に応じた作品を掲示している。 照明や音、室温にも配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫に努めている。	リビングは吹き抜けの窓から自然光が射し明るい空間である。利用者がテーブルに集い、野菜の皮むきなど思い思いに過ごしている。廊下は広く手摺を完備しており、畳の間も寛げる場となっている。職員は、行事の写真や季節の飾り等を随所に掲示している。毎日の清掃は、利用者もできる範囲で手伝い、清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファ、テレビ等を配置し、一人一人が自由に過ごせるよう工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し、使い慣れた物の持ち込みや生活しやすい配置にする等、居心地よく過ごせるよう環境整備に努めている。	使い慣れた机を持ち込み、愛用の時計を使用しながら日記を付けたり、和の掛け軸を飾ったりと、自宅同様の個性豊かな居室となっている。離床困難な利用者の居室にはラジオや音楽を流す等、細やかに支援している。職員は季節ごとに、行事の写真入りカードを彩り良く飾り、清掃、空調管理など居室の清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活習慣や歩行状態等を考慮し、安全に自立した生活が送れるような家具の配置の工夫に努めている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201322		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 ユニット:すみれ		
所在地	長崎県佐世保市長畑町450-1		
自己評価作成日	令和3年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 3年	月	日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット:すみれ ・理念に基づき、一人一人がいつまでも自分らしく生活できるように支援しています。 ・職員一同、何事にも共有し、敬いの心を持って接しています。 ・家族からの意見や相談も伺い、可能な限り共有できるようにしています。
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関やフロアに掲示し、職員全員で共有し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店を利用し、地域の清掃活動に参加している。 コロナ禍の為、保育園交流会は中止になっている為、お土産を渡している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	清掃活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議開催であるがコロナ禍の為、開催出来ていない。 書面にて送付し、意見など返送して貰っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関してわからないことを各担当に相談している。 コロナ禍の為、研修参加は出来ていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての施設内研修をしているがコロナ禍の為出来ておらず、資料を基に職員全員報告書を提出している。 ミーティングの場でも話す場を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で行っているがコロナ禍の為出来ておらず、資料を配布し、職員全報告書を提出している。 ミーティング等でも職員同士で話し合いを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。 現在、対象者はいないが必要時に活用できるようにしておきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族が十分に理解、納得出来るように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時には家族に意見や要望を伺い対応している。コロナ禍のため、運営推進会議は中止しているが書面での意見を送付して貰っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等にて職員の意見を聞き意見交換をし、利用者の支援に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の意見を聞き、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が必要な研修の参加を受ける機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、定例会議での意見交換を行い、東部ブロックでの研修を実施していたが、コロナ禍のため実施出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、前ケアマネ等の連絡意思確認を行い、入所前にスムーズに生活移行できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階で家族の不安や施設の生活に対する意向や要望を確認し、プラン等に反映するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナ禍もあり、外部ボランティア等を利用出来ていないが今後状況に応じて検討していきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴などをもとに残っている能力に沿って、作品作り、家事などできることを取り入れ、感謝の言葉や人の役に立っているという思いを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や定期での状況報告を通じ、本人との関係性の維持に努めている。受診等の支援なども協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため直接面会の機会は取れないが電話等での対応、写真や広報等の活用によって本人の様子を発信している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者本人の性格、ADLなどそれぞれの相性を考慮し、場面に応じた席の配置、声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も関係機関との連絡や必要に応じて様子確認等行う事もある。相談時は対応を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で本人の意向や要望のはあくに努め、意思の伝達が難しい方には本人の立場に立ち支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族との半生を聞き本人の生活歴、趣味等を把握し、職員一同で情報交換し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し、特変ないか情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のミーティング、カンファレンス、定期的にモニタリングを実施し、本人へより良いケアを目指している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送り、申し送りノートを持ち入り情報を共有し、職員が同じケアができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に応じた柔軟な支援や対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室を利用しコミュニケーションがとれ交流が出来ていたが、コロナ禍のため出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、受診、協力医との連携や相談を行っている。本人、家族の意向も伝えている。法人外のかかりつけ医には必要に応じ情報提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気があれば報告や相談をし、指示や助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先での情報提供を共有し努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明し状態変化時や終末期には再度説明し意向を聞きプランを作成する。看護師との連携、情報の共有を行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿い、医療機関に連絡対応する。コロナ禍前は定期的に消防署員より救急救命講習の実施があり受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	2か月に1回防災訓練を実施。コロナ禍間は消防署員、地域の方に来てもらい実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方を敬い、敬語を使い一人一人の心身の状態を見てその時に応じた言葉のかけ方、対応を配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重し、どんなことでも話せる雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく、本人のペースで生活できるよう居心地の良い場所や時間を配慮する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選ばれた服を来てもらい、選べない方には季節に合った服を着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、切碎、お盆拭き等支援している。その中でコミュニケーションが取れ、楽しく会話出来ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせた食事形態、栄養管理、本人に合わせた時間帯で食事支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、その方の能力に応じた介助を行っている。定期的に洗浄液に浸け清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行っている。 介助の必要な方は出来ない部分で介助し、自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水などの水分量を把握し、乳製品の提供をしている。 運動やマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調、希望に応じ支援している。入浴時、声掛けし楽しい空間になるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態や習慣に応じ、午睡を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方に対し説明があり、職員間でも薬情の確認や情報の共有を行っている。 気づきがあれば主治医へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や趣味を把握し、個々に合った楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出支援は自粛している。天候を見ながら外でお茶の時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が管理出来られず家族管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話訴えはないが家族からの電話対応は行っている。 手紙や写真、作品など家族へ渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節に合わせて作品が提示しており、利用者と一緒に貼り絵など作品制作に参加してもらっている。日中の照明、心地よい音楽、過ごしやすい室温に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや椅子を配置。廊下にも休憩できるようにソファ配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い入れのある物や使いやすい物、家族と相談し持ち込まれた物を用いて過ごしやすい配置に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活習慣や本人の状態に応じ、家具の配置を行い、安全に生活できるよう支援している。		